

# 全葬連富山大会

## 来年6月、横浜で国際大会

### 弔う心を後世に伝える

全国1316社が加盟する全日本葬祭業協同組合連合会(全葬連)石井



全国各地の葬儀社が集まった第64回富山大会

時明会長)の第64回富山大会が9日、富山県富山市内のホテルで開催され

た。葬儀社として「葬送儀礼文化を未来に伝えていくこと」とその使命を確認。また来年6月に第65回大会と国際葬儀連盟創立50周年大会が神奈川県横浜市内で開催されることから、多くの参加が呼びかけられた。式典では石井会長が挨拶。日本唯一の連合組織として「地元の葬儀社としてなくてはならない業者になっていただく」と、それがまずもって基本。われわれ小さい業者が生き残るためにはどうしたらいいのか。その手助けが少しでも出来たらと、日々活動をしていると披露。葬儀の形態

がこれほどのスピードで変わっていくことは想像できなかったが、後戻りさせるのは難しい。だとすれば、皆で考えて葬儀文化の継承、日本人の弔う心の大切さを、後世につないでいかなければならない」とその使命を語り、葬祭業の業法の確立、会員の増強などの課題を確認した。来年6月23日に神奈川県横浜市内で第65回全国大会および国際葬儀連盟創立50周年の記念世界大会を併せて開催することも発表した。

世界90カ国が加盟する国際葬儀連盟の北島廣会長は「業界には色々な課題がある。残された就任期間中に、この葬祭業界を、若い人たちが魅力を感じ、将来にわたり誇りを持って働いてもらえるようにと考えている」と語り、来年の世界大会では各国からの業界関係者が来日することから、「世界の仲間と交流を深め情報を交換し、学べる点は学び、色々なことを参考にしたい」と参加を呼びかけた。

「組合員増加単組」「災害協定増加単組」など各種の表彰が行われたのち、大会決議を採択。地域社会や家族構成の変化、人間関係の希薄化により、人と人の触れ合

いが失われつつある今こそ、葬儀とは「故人と関係のあったすべての人にとっての別れの場」であり、「ご遺族が死という事実を受け入れて、これから生きていくための癒しを与える場」であるという葬送儀礼文化を、これからの未来に伝えていくことが、われわれ全葬連に課された使命である」とし、「葬祭業界の原点」に立ち、「消費者にとって安心・信頼できる、葬祭業界の健全たる発展を期すこと」を決議した。式典後には、これからの葬儀や葬祭業界の在り方をテーマに記念講演やパネルディスカッションが行われた。